綿半レポート

Watahan Report

2027年3月期 中間報告書

2026年4月1日 ▶ 2026年9月30日

綿半



日本一の星空（長野県阿智村）

写真提供：株式会社阿智昼神観光局



地域を繋ぐ「面」が生み出す、持続可能な未来

代表取締役社長 **野原 勇**

各事業の連動で「循環型経済」の構築が加速

――420年以上受け継がれてきた「合才の精神」を核に、各事業という「点」を繋いで「線」とし、信州全体を支える「面」へと広げていく戦略。どのように進化・結実し始めているのでしょうか。

綿半グループが420年以上にわたり、時代の荒波を柔軟に越えてこられたのは、常に信州の地に根を張り、地域の暮らしに寄り添いながら、その時代に合ったインフラを自ら育ててきたからです。それが、グループの経営理念である、力を合わせ、分かち合い、響き合う「合才の精神」であり、地域からの信頼に対して、貢献をもって応える経営を続けています。

現代の日本では人口減少やコスト高といった課題に直面していますが、外部環境がいくら不透明になったとしても、「住まうこと」「食べること」「健やかに生きること」という人々の暮らしの根幹が揺らぐことはありません。

当社グループは、生活を支える「商業」、暮らしと産業を形作る「建設」、そして食を支える「農業」や「物流」といった各事業を連動させた循環型経済で地域の未来を守りながら、グループの持続的な成長を実現するための取組みを進めてきました。そのいくつもの挑戦が確かなシナジーとして動き出し、いま力強い手応えを感じています。

電気設備の内製化が生む、建築の「ワンストップ」体制

――新たに、地域インフラを支える企業がグループ入りしたのもその一環ですね。

南信州地域で高い技術力を持つ電気工事会社「東陽興業株式会社」が、新たにグループへ加わりました。グループ入りには5年ほどの歳月を要しましたが、当社グループにとって極めて戦略的価値の高い一歩だと捉えています。

現在、建物を建てる過程で需要が高いのが「電気・通信設備」です。オフィスや商業施設はもちろん、住宅、ホテル、データセンターに至るまで、ITネットワークや大容量電源の確保が不可欠になっているからです。

今回、その電気・通信設備の施工力を誇る東陽興業がグループ入りしたことで、建築の骨格をつくる土木・鉄骨・木造建築から、電気設備・内装・メンテナンスまでをワンストップで完結できる体制が整いました。これにより、コスト競争力と工期管理の精度が飛躍的に高まります。

――地方における後継者不足や事業承継という社会課題の解決にも直結していますね。

その通りです。地方の優良な中小企業は、技術力や内部留保がありながらも、経営者の高齢化などに伴う事業承継の難しさに直面しているケースが少なくありません。そうした企業の受け皿となり、雇用と匠の技を守りながら、グループの総合力を活かして次の成長ステージへと導くことは、地域経済の空洞化を防ぐと同時に、当社の建設・インフラ事業の基盤をより強固にする取組みです。

来春稼働の「低温物流センター」から、産地直結の鮮度を届ける

――インフラの自前化という点では、かねて注力されている「物流」でも投資が進んでいますね。

流通・小売業における「物流コストの高騰」と「ドライバー不足」という課題に対し、早くから自社物流網の構築を進めてきました。現在、自社保有トラックは24台規模へと拡大し、日々の流通網を力強く支えています。

この戦略をさらに前進させる布石として、来春、飯田市に新たな「低温物流センター」の稼働を準備しています。これは単なる荷物の保管庫ではなく、長野の豊かな農産物や自社開発の食品を、最高の鮮度で集約・加工・配送するための一大拠点です。

生鮮品、特に野菜の品質管理において、収穫直後からの温度管理は生命線です。一般的な市場流通では、集荷から配送の過程で常温に晒される時間があり、一度温

度が上がってしまうと、後から冷やしても野菜本来の鮮度や甘みは急速に失われてしまいます。

当社が整備する低温物流センターでは、産地で収穫された農作物を最適な温度帯ですぐに受入れ、加工・仕分を行い、冷蔵車で店舗や消費地へ直送します。圧倒的な鮮度保持が実現でき、将来的には、首都圏への配送や海外輸出まで視野に入れた展開が可能になります。

「課題解決」を起点とする観光・宿泊インフラの再生モデル

――「第4の柱」として位置づけている観光事業でも、興味深い動きが始まっていますね。

観光事業においても、私たちの姿勢は一貫して「地域の課題を価値に変える」ことです。信州、とりわけ南信州地域は雄大な自然や豊かな歴史を持ちながらも、観光インフラの老朽化等によって、その魅力を活かしきれていない施設が数多く存在します。しかし、その場所が持つ景観や文化的な価値までが失われたわけではないのです。

そこで当社グループでは、株式会社綿半リゾートを設立し、阿智村・昼神温泉郷にある「ユルイの宿 恵山」を取得したほか、天竜峡の老舗温泉旅館「秘境のおやど 龍峡亭」の再生に着手しました。



――綿半が再生に関わることで、具体的にどのような変革がもたらされるのでしょうか。

当社の強みである「建設技術」「仕入・物流インフラ」「経営管理能力」を掛け合わせ、施設の構造から運営システムまでを現代のニーズに合わせて再構築します。同時に、宿泊客の体験価値を高める工夫も欠かしません。また、阿智村の「日本一の星空」は、都市部では決して味わうことのできない唯一無二の空間を、個人旅行客やインバウンド客に提供していきます。

住宅技術の応用が切り拓く、木造非住宅「ヴィラ型宿泊施設」

――新たな形態による宿泊施設の展開も始まっていると聞きました。

現在、全国数カ所で進行している木造の「コテージ・ヴィラ型宿泊施設」の建設は、まさに事業シナジーを象徴する取組みです。

インバウンド客を中心とする富裕層やファミリー層の間では、従来のホテル客室に泊まるスタイルから、1棟貸切で数日から1週間ほど暮らすように滞在するリゾートヴィラへの需要が急速に高まっています。

実は、大規模なゼネコンは鉄骨やRC（鉄筋コンクリート）の大空間建築を得意とするため木造建築のノウハウに乏しく、一方で地元の工務店は戸建住宅の規模にとどまり、リゾートヴィラのような複数棟の一括開発を請負うキャパシティがありません。

ここに、当社グループが長年培ってきた「戸建注文住宅の木造技術」と「大型商業施設を手掛ける建設事業の組織力」の双方を併せ持つ強みが合致したのです。

――住宅のノウハウを応用することで、高い収益性と独自性を生み出しているのですね。

はい。戸建住宅の設計・施工基準を活用することで、建築コストを抑えながらも、木の温もりを活かした上質で意匠性の高い空間を、短工期で連続して建てることができます。露天風呂などを含む特注の浴室など、非日常感を演出する水回り設備の提案力も、当社の強みが活きる部分です。

現在、住宅市場全体が着工数減少という課題に直面するなか、当社の木造住宅部門は「非住宅・リゾート建築」という新たな成長市場を切り拓き、全国の開発事業者からの案件を次々と獲得しています。このモデルは全国の観光地へと横展開できる、極めて発展性の高い事業に育ちつつあります。

ブレない軸を持ち、次の400年を見据えた企業価値の向上へ

――最後に、株主の皆さまに向けたメッセージをお願いいたします。

昨今、当社グループのような地方を地盤とする企業は、時に「内需関連」「成熟企業」といった一面的な枠組みで見られがちです。しかし、私たちは、エネルギーや食料の海外依存、人手不足、物流危機といった、いま日本が直面している構造的な課題に対し、信州での具体的な解決策を形にし、収益化している企業グループです。



地域に寄り添い、必要なインフラを自前で整え、付加価値を生み出すこの「面」のビジネスモデルは、ひとたび完成すれば、景気の波に左右されない持続的な成長を生み出します。

これからも目先の流行に惑わされることなく、信州の大地に深く根を張り、そこで磨き上げた価値を日本全国、そして世界へと発信してまいります。株主の皆さまにおかれましては、綿半グループの次なる挑戦と着実な歩みを、中長期的な視点で温かく見守り、末永くご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

綿半で輝く「人財」

綿半グループを担う
「人財」の魅力を紹介します。

綿半グループの木造建築分野には、建築資材の加工・販売を担う「綿半林業」を筆頭に、直営で設計・施工を請負う「綿半林業の家」、フランチャイズ展開を広げる「綿半林業SH」があります。今回は、「綿半林業の家」の日当瀬取締役のインタビューです。



綿半林業の家 取締役 **日当瀬 賢**

平日は日本各地の支店を
飛び回る日々を送る。
趣味は飲み会・ゴルフ・サウナ。
好きなことは楽しいことと笑うこと。
おすすめのお酒は
やっぱり芋焼酎！

「木の家」を日本から世界へ。「綿半林業の家」の挑戦。

✦独立のきっかけと「原点」

両親が鹿児島県で工務店を営んでいたので、自然とこの道に進みました。

東京の専門学校と大学を卒業後、大手ハウスメーカーに入社し転勤で鹿児島へ。そこで直面したのが、住宅購入のハードルの高さです。一流企業に勤める友人でも「ハウスメーカーの家は高くて買えない」と言うのに衝撃を受けたのです。

これを契機に「良い家を手が届く価格で提供したい」という独立心が強くなり、実家の工務店を継ぐ道を選びました。これが私の「原点」です。

✦挫折と新たな出会い

実家を継いだものの、家族経営のため1人で営業・設計・現場を慌ただしく回しており「いつか限界が来る」という危機感が常にありました。その中でも色々挑戦し、失敗もしました。良い家を安くすれば売れると考え、ハウスメーカー同等の家を20%以上安くしたけど全く売れなかったとか…笑。

一生に一度とも言われる大きな買い物ですからね。費用対効果だけではなく、独自の強みや特長がなければ選ばれないことに、当時は気付いていませんでした。

その頃起こったのが東日本大震災です。直接的な被害はないものの現場に建築資材が入らなくなり、小さな工務店の限界を感じました。

住宅業界の再編も進み、生き残る方法を模索する中で出会ったのが「サイエンスホーム(現：綿半林業SH)」です。日本の伝統工法「真壁づくり」を取入れた、国産ひのきの家をリーズナブルに提供する住宅ブランドで、「これなら鹿児島のお客さまに自信を持って届けられる！」と思い、フランチャイズに加盟しました。

✦「全国加盟店No.1」への道

加盟後はサイエンスホームの家だけに事業を絞り、工務店の強みを尖らせました。また、サイエンスホーム本部や加盟店仲間の成功・失敗談を素直に聞き入れ実践しました。するとどんどん集客ができるようになり、九州エリアマネージャーを経て、全国加盟店で不動の「No.1」へと成長したのです。その頃には従業員を雇い、鹿児島県内3拠点で活動できる程になりました。「信じて疑わない、愛してやまない真っすぐな心」が成長に繋がったのだと思います。

✦私が大切にしているもの

ずっとここにいたくなる心地よい空間造りを大切にしており、時が経つほど味わいと愛着が増す家をリーズナブルに提案するのが理想です。

本物重視で無垢材を使いつつ、造り込まずにコストを抑える「シンプルな家づくり」に欠かせないのが「真壁づくり」です。本来は高くなるはずの「真壁づくり」でコストを抑える秘密は全国のモデルハウスでお尋ねくださいね！

また、何事も笑顔で楽しむことを大切にしています。お客さまと10年、20年と対話を重ねることで深い信頼関係を育み、笑うこと自体が「仕事=生活」になる家づくりが大好きです。

✦綿半グループ入り後の変化

2019年にサイエンスホームが綿半グループ入りし、経営統合が進む中で2025年に私の工務店もグループ入りしました。現在は、直営の工務店機能が集約する「綿半林業の家」で指揮を執っています。

ちなみに、私のジャケットから顔を出しているのは、綿半林業の家の公式マスコットキャラクター「わたりん」です。「わたりん」の広報活動も仕事の一部です笑。

綿半グループに入った最大の強みは、お客さまや加盟店に対する『絶対的な安心感』です。綿半林業全体の加盟店数は全国で約500店舗と「日本一の工務店ネットワーク」を誇っており「SUUMO注文住宅アクセス数ランキング全国1位」も連続獲得しています。

また、グループ内で木材調達から加工、販売までを完結できる「一貫体制」が整ったことも大きいですね。協力体制が構築されたことで、事業基盤が強固になりました。

従業員達にも変化を感じています。社内外のコミュニケーション量が急増しました。グループ内の豊富な知見や成功事例を共有し、高め合える環境があることは本当に心強く、家づくりを笑顔で楽しむ原動力になっています。

✦面白いね、楽しいね！の感覚を大切にする会社

「綿半林業の家」って、みんな木の家が好きで、楽しく働いているんです。

例えば商品開発の場合、飲み会や雑談の中で「こういう商品があったら面白いよね！」って役職関係なくフランクにアイデアを出し合い、楽しみながら新しい商品を生み出していくんです。そのおかげで、時代や若い世代のニーズに合わせた柔軟な提案が可能になっています。例えば、『税抜999万円～の国産ひのきの家』というコンセプトで開発した「Qクラス」は、「資材価格高騰の中でも、1,000万円以下で木の家が建てられるといいよね！」という雑談の中から生まれたんですよ！

✦日本から世界へ。「綿半林業の家」が目指す未来

私たちが目指すのは、健康的な暮らしです。そのために、日本の伝統的な「真壁づくり」が、もう一度日本のスタンダードとなるよう魅力を伝えたいです。

もう一つが、近年需要の高い「非住宅木造建築」への取組みです。商業施設や一棟貸し宿泊施設の建設だと、ビル建設メインの大手ゼネコンや、小さな工務店には対応できず、中間ニーズに応えられる「綿半林業の家」が重宝されます。実際に全国で完成した建物が続々OPENしています。

また、将来は日本の伝統工法の家や木造建築を海外にも展開したいです。

日本、そして世界へ。私たちはこれからも、全国の工務店仲間や「わたりん」と共に、親しみやすく、ワクワクする未来へと全力で駆け抜けていきます。

真壁づくりとは
柱や梁を隠さず、そのまま室内に見せる仕上げのこと。日本家屋や寺社仏閣等に使われる日本古来の工法。


始良モデルハウス（鹿児島県）

特集

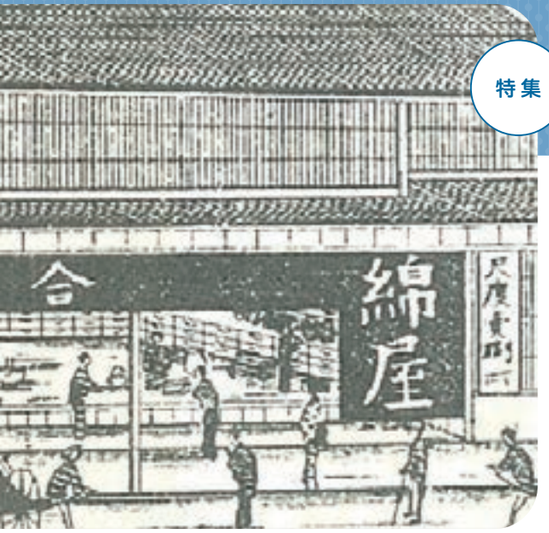
綿半の中期経営方針

長野県を基軸とした事業展開

方針❶ 6次産業化

方針❷ エネルギー

方針❸ 観光



1598年に長野県飯田市で綿屋として創業したのが「綿半」の始まり。
以後400年以上の歴史を、地域と共に紡いできました。
（画像は明治時代、金物店へと事業を転換した時期の「綿屋」を描いた資料）

綿半は長野県で生まれ、共に育ち、いつの時代も「地域の発展」に尽力してきました。

長野県はいわば綿半の「原点」です。

近年、世の中は加速度的に変化しており、世界情勢の不安定化や円安進行による物価高など先行き不透明な情勢が続いています。

この状況下において、綿半が今後も成長を続けるためには、今一度原点に立ち返り、長野県を基軸とした事業展開を再構築していくべきだと考え、以前より準備を進めていました。

2022年には「地域に寄り添い、地域と共に新しい価値を創造する」を中期経営方針に掲げ、現在は長野県の豊富な水資源を基軸とした3つの方針に取組んでいます。

1 6次産業化

畜産・農業・林業に参入し、生産から販売までを一貫して手掛けることで、お客さまに安心・安全をお届けしながら長野県の1次産業の持続的な発展を後押ししていくことを目的に6次産業化に取組んでいます。





2 エネルギー

木質バイオマス発電事業に参入し、未利用材を燃料に再生可能エネルギーを作り出すことで、森林資源を有効活用して持続可能な地球環境の保全に取組むほか、設備事業にも参入し、地域の活性化に取組んでいます。





3 観光

日本は人口減少が続いており、なかでも田舎はその傾向が顕著です。

田舎の「今」は地方都市の「近未来」。地方都市の「近未来」は日本の「未来」であると捉えており、一企業として日本の「次」を作っていくためには、まずは「地域の魅力を再発掘」し、その魅力を外部の方へ伝えていく必要があると考え、観光業に取組んでいます。



「点」でしかなかった一つひとつの取組みが、次第に繋がって「線」となり、地域を支える「面」を形成し始めています。綿半はこれからも「原点」である長野県に寄り添い、共に発展を続け、ゆくゆくは長野県から日本、そして世世界へという意識で各事業を展開していきます。



TOPICS 1

新規事業TOPICS



観光

観光事業へ本格参入しました！

綿半に「秘境のおやど 龍峡亭(長野県飯田市)」と、「昼神温泉 ユルイの宿 恵山(長野県阿智村)」がグループ入りしました。

リニア中央新幹線の開通やインバウンド需要の拡大による交流人口の増加を見据え、地域事業者や自治体の皆さまと連携しながら、観光基盤の維持・強化と地域価値の向上に取組むとともに、信州ならではの自然・温泉・食文化・観光資源を活かした滞在価値の向上を図ることで、地域活性化及び地方創生への貢献を目指します。

「秘境のおやど 龍峡亭」

1937年に創業した、上皇上皇后両陛下が昼食に訪れたこともある老舗の温泉旅館です。お部屋からは、四季の移ろいとともに表情を変える、天竜峡の美しい景色をご堪能いただけます。現在、リニューアルオープンに向けて準備を進めています。



「昼神温泉 ユルイの宿 恵山」

1977年に創業した、囲炉裏料理と満点の星空が楽しめる温泉旅館です。
今期より株主の皆さまには、「公式サイト掲載プランの販売価格より10%割引」でお泊りいただけるようになりました。ぜひこの機会にお越しください！



エネルギー

電気設備の「東陽興業株式会社」がグループ入り



東陽興業は、1950年に創業し、長年にわたり長野県内の電気・電気通信・管・消防施設等の工事を手掛けてきました。また、工場・プラントの制御システムや大型ビルの計装設備に関する高度な技術力を強みに、公共施設や民間企業から厚い信頼を得ています。

リニア中央新幹線の開通を見据え、南信州エリアではインフラ整備や都市開発の需要拡大が見込まれています。綿半グループは、東陽興業が培ってきた技術力と地域ネットワークを活かし、長野県内におけるインフラ整備を通じて、地域の活性化に取組みます。

TOPICS 2



綿半の特例子会社

「合の会（あわせ）」の取組み





株式会社合の会は、グループ全体の障がい者雇用を推進するため2024年7月に設立、2025年2月に特例子会社へ認定されました。

小売事業を展開する企業グループが設立した特例子会社としては、長野県内初となります。

合の会では、全員が安心して働き続け、力を発揮できる環境作りに注力しています。業務のチーム制や外部支援機関との連携により、日々の困りごと相談ができる体制を整えるほか、特性に応じ業務や働き方を調整しています。

現在は、チームを率いる有資格者リーダー3名と障がいのある従業員11名が綿半の店舗等で、厨房・品出し・労務事務等を担っています。

綿半は今後も多様な人財が力を発揮し、成長できる環境づくりを推進していきます。

担当者コメント







会社設立から雇用まで試行錯誤の連続でした。同時に、地域連携や「合才の精神」の大切さを実感しました。雇用開始後は、一人ひとりと向き合い、適宜業務進行や支援方法を見直す中で、私達自身も多くを学び、信頼関係を築いていきました。「誰もが働きやすい職場」に決まった形はありません。より良い形を模索する中で「ここで働けて良かった」という言葉を聞けたときは、この仕事に携わってきた意義を強く感じます。

合の会が目指すのは、「雇用だけ」の特例子会社ではありません。地域の企業や支援機関・学校等との繋がりを広げ、障がいのある方が働く機会を地域と作っていくこと。そして、障がいの有無に関わらず、全員が自分らしく働き、力を発揮できる社会に繋げていくことも、私達の役割だと考えています。

障がい者雇用を契機に、人と人、企業と地域が繋がり、学び、成長していく。その中で合の会が果たせる役割を問い続けながら、まずは地域に根差した取組みを少しずつ積み重ねていきたいです。そして、全国の障がい者雇用において参考となるような、綿半グループらしいモデルの構築を目指します。

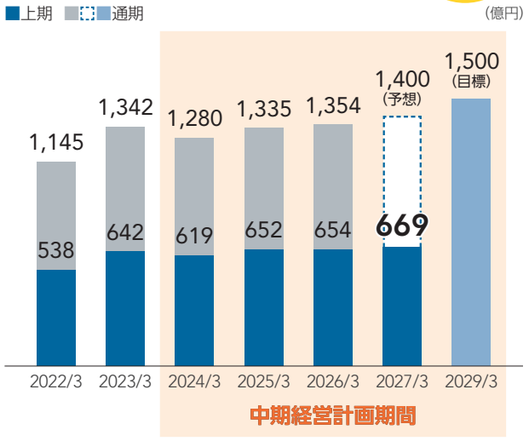
上期の実績



- 連結業績は計画通りに推移
- 建設事業の工事が順調に推移した一方、小売事業の店舗改装と天候不順の影響で減益

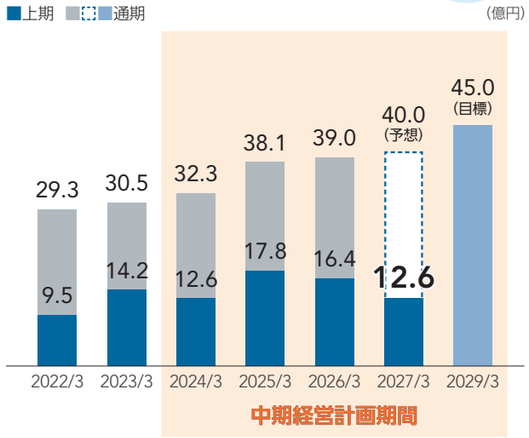
売上高

669億円　前年同期比 2.3%増



経常利益

12.6億円　前年同期比 22.7%減



中期経営計画財務目標

2029年3月期 目標値	売上高	経常利益	経常利益率
	1,500億円	45億円	3.0%



セグメント別情報

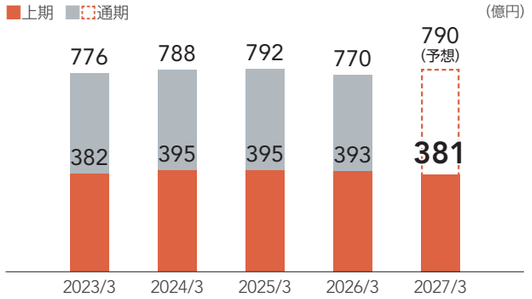


小売事業

スーパーセンター・ホームセンター・食品スーパー・
ドラッグストア・インターネット通販等を展開しております。

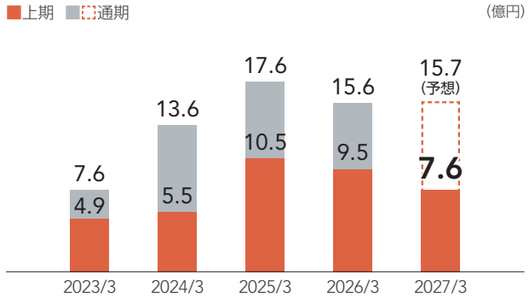
売上高

381億円　前年同期比 3.0%減



セグメント利益

7.6億円　前年同期比 19.5%減



- 積極的な店舗改装実施による一時的な売場縮小及び天候不順による季節品不振の影響等により減収減益



TOPICS

小売事業では、引き続き積極的な店舗改装を進めています。

須坂店・箕輪店では、精肉の対面販売コーナー・調理風景を楽しめるライブキッチンを新設したほか、上田店では、近年増加する外国人移住者向けに、世界6ヶ国の食材を取扱う「ワールドマーケット」をオープンしました。

さらに、7月には万力店に果樹農家向けの専門売場「農業パラダイス」が誕生し、綿半として初めて毒物・劇物指定のプロ向け農薬を取扱うほか、お好み通りの成分配合ができるオーダー肥料の注文受付も可能になりました。

今後も、地域に寄り添い、地域の需要に即した売り場づくりを推進していきます。





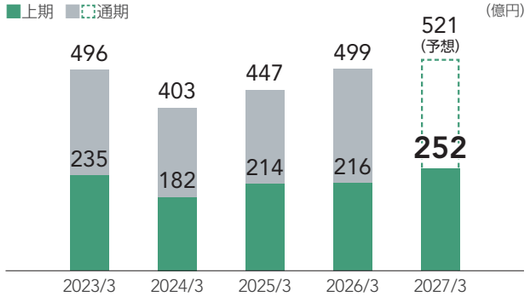
建設事業

木造建築、鐵構、屋根外装改修、自走式立体駐車場等を展開しております。

売上高

252億円

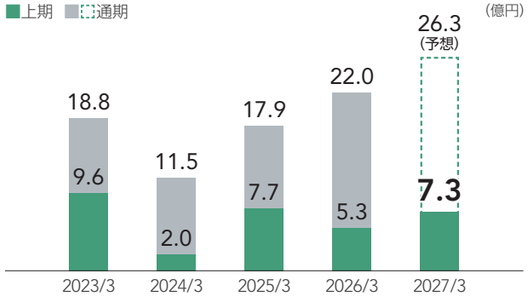
前年同期比 16.6%増



セグメント利益

7.3億円

前年同期比 38.2%増



● 駐車場及びリニューアル分野で工事が順調に推移したことにより増収増益



TOPICS

綿半ソリューションズでは、新たに環境配慮型自走式立体駐車場の防耐火大臣認定を取得し、5月に2物件を受注・着工しました。

電炉母材の冷間ロール成形角形鋼管「TSC295(東京製鐵株式会社の開発商品)」を活用することで、従来の高炉材と比較しCO_2排出量を約70%削減しています。

今後も、持続可能な社会の実現を目指し、環境に配慮した新商品・新工法・新サービスの開発を推進していきます。



作画提供：株式会社日建設計



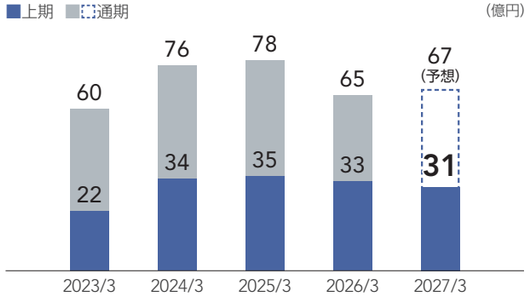
貿易事業

世界20カ国以上から天然由来の医薬品・化粧品・食品原料の輸入販売、不妊治療薬の原薬製造等を行っております。

売上高

31億円

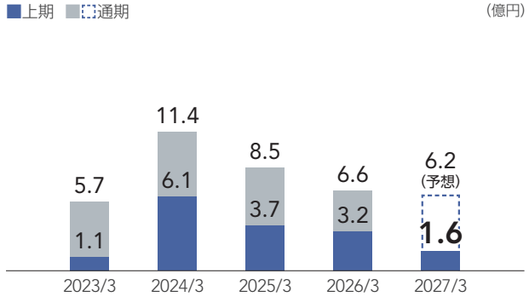
前年同期比 5.0%減



セグメント利益

1.6億円

前年同期比 47.6%減



● 一部原薬の製造工程見直しの影響や、前期との納入時期の違いにより減収減益



TOPICS

食用サボテンの将来的な安定供給体制の構築と事業拡大に向け、5月に長野県及び沖縄県でウチワサボテンの大規模栽培を開始しました。総面積は約1,500坪となり、国内最大級の規模となります。今後は、各地域の土壌条件や栽培方法の違いによる生育データの収集を行い、中部大学(愛知県春日井市)や研究機関との連携を通じて、科学的知見に基づく栽培体系の確立を目指します。



皆さまの応援で、過去最高の10位に！



ゆるバース 公式サイト　https://www.yurugp.jp/yvs

綿半公式マスコットキャラクターの「わたぴー」と「わたりん」が、「ゆるバース2026」に出場しました！

「ゆるバース」は、2011年にスタートした「ゆるキャラグランプリ」を前身とする、全国のゆるキャラが集う祭典です。今年は、過去最多となる435体のキャラクターがエントリーしました。

約2か月間のオンライン投票と、さいたま新都心で開催された決選投票イベントを経て、「わたぴー」と「わたりん」は過去最高の10位に輝きました！

これもひとえに、皆さまの温かい応援のおかげです。本当にありがとうございました！

「わたぴー」と「わたりん」は、これからも綿半グループの顔として、皆さまに笑顔を届けられるよう頑張っていきます。

引き続き、応援をよろしくお願いいたします！



わたぴー プロフィール

綿半の「わ」と「HAPPY」「PLACE」「PARTNER」の3つのぴーを合わせて「わたぴー」だよ。
明るくて好奇心旺盛だけど、ちょっぴり恥ずかしがりや。SNSではわたぴーの日常やお仕事の様子をお届け中！時にはダンスにもチャレンジしています！

わたぴーの部屋
最新情報は
こちらをcheck

誕生日	5月10日
生誕地	信州・綿半村
趣味	綿半でのお買いもの



わたりん プロフィール

わたぴーとはきょうだい。
もっと楽しくて健やかな暮らしをつくるため、その大事な場所になる家をつくるために、森で生まれて、このまちにやってきました。
どうぞよろしく。

Instagram
最新情報は
こちらをcheck



Pick up 表紙写真紹介　**日本一の星空（長野県阿智村）**

阿智村は、2006年に環境省が実施した「全国星空継続観察」で、「星の観察に適していた場所」第1位となりました。
澄んだ夜空を見上げれば、無数の星々が頭上いっぱいに広がります。村では星空鑑賞イベントやツアーが開催され、春夏秋冬それぞれに表情を変える星空を楽しめます。まるで星が降り注ぐような光景は、息をのむほどの美しさです。あなたも阿智村を訪れ、満天の星に包まれる特別なひとときを過ごしてみませんか。

写真提供：株式会社阿智昼神観光局



綿半ホールディングス株式会社
長野県飯田市北方1023-1　TEL:0265-25-8155（代表）
https://watahan.co.jp/

GREEN PRINTING JFPI
P-A10007

FSC ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C022915